

「西田先生はどうして上手に話ができるのですか？」

平成 28 年 3 月 8 日

●いがなさんからの質問

先生の国会質疑や公演会の様子を見てみると、非常に分かりやすくかつ迫力があり、勉強させていただいております。私はどうも、人前に立つと緊張してしまい、上手く話すことが出来ません。西田先生はどのようにして、そこまで上手になられたのでしょうか。生まれもっての才能でしょうか？

●西田昌司の答え

私は非常に内気で恥ずかしがり屋であります。小学生の頃、授業中に手を上げて先生に当てられた時などは、顔が真っ赤になって非常に緊張しながら答えたものです。平気でおちゃらけてみんなの人気者になっている同級生を眺めながら「僕もあんな風になれたらなあ」と羨ましく思っていました。かなりの引っ込み思案でした。

そんな私が、31歳の時に京都府議会議員選挙に立候補する羽目になってしまったのですが（自分の意思ではなく、立候補せざるを得ない状況でした）、それまで人前で演説をする機会も全くありませんでしたので、自分で原稿を書いて鏡の前でそれを読み上げて演説の練習をしていました。そんな姿を見ていた父が、母に向かって「あいつ、あんな恥ずかしいこと、よくやってるなあ」とこぼしていたのを覚えています。最初はとつとつとしか話せなかったのです。

京都府議会議員に当選してからは、毎朝の街頭演説を自分に課して自分を磨かんと頑張ったのですが、この経験が大きかったように思います。政局が自民党に不利な時には野次られたり、暴力団員とおぼしい男にからまれたり

と、いろいろな経験を積むことでだんだんと腹が据わってきて、人前で話すことに少しずつ慣れてきました。

そうやって話せるようにはなってきたのですが、それが人に受けるかどうかはまた別問題です。街頭演説をしても通行人のほとんどが耳を全く傾けることなく通り過ぎていきます。そんな様子を見ていた私の友人が、私の演説会を企画して皆に私の話を聞いてもらおうと計らってくれました。100人もいない聴衆を前にして私は1時間ほど懸命に話しましたが、演説会にわざわざ駆けつけてくれた人が私の目の前で居眠りをしていて、その姿を見て非常にショックだったのを覚えています。演説会の後、「西田さんの話は何が言いたいのがわからない」「結論は一体何なのか」といった駄目だしを多く食らってしまいました。

その後も懲りずに演説会を重ねましたが、聴衆からの意見を参考にしながら話す内容を自分なりに磨き上げることを通じて、今ではこの程度（私は大して話が上手いとは思いませんが）は話せるようになりました。

人前で上手く話したいとお悩みの方には、失敗を恐れずに練習を積み重ねてください、とアドバイス申し上げます。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>